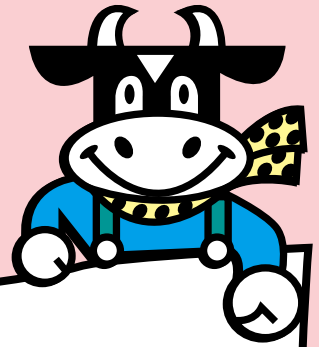




# ワンポイント・アドバイス



## 酪農における「搾乳」って？

一口に酪農と言ってもその範疇にはたくさんさんの仕事があり、それが最終的に一つの仕事のためになされています。それが「搾乳」であると考えます。直接酪農に携わらない人は「酪農」搾乳ではないでしょう。毎日休まず働く酪農家の直接の収入の多くがこの搾乳で得られた「牛乳」なのです。つまり搾乳無くしてこの職業は成り立たないのです。(当たり前ですよ。)

私は新人として標準地区に赴任したのですが、ありがたいことに何件かの農家さんで搾乳風景をみて勉強させて頂く機会がありました。そんな私の少ない経験の中で観察し思考した結果を少しでも農家さんに還元できたらなと思いい執筆させて頂きました。

私が一番興味深く感じたのは、搾乳方法がてんでバラバラだったと言うことです。学生時代教授に教わった搾乳手順と農家さんの行っている搾乳手順に違いがあるという事実を知った時、大きな衝撃を受けました。ただバラバラなのが悪いかと言われるとそうでは無いと思います。大事なことが抜けてなければそれは良いと思うのです。

### ●搾乳で外せない大事なポイント

- これも当たり前なのですが、一応項目で書き出してみると、
1. 前搾りを行い搾乳の準備、乳房炎の有無の確認をする。
  2. 搾乳時ティートカップを装着する際に乳頭が乾燥し清潔であること。
  3. 搾乳後に乳頭の8割以上がディッピング液にさらされていること。

最低限外せない項目を三つあげさせてもらいましたが、究極に詰めると2・3だけでも行うと経営にかかわるような大きな損失を出さずに収入を得られる農家さんが多くなると考えます。

ただせっかくなのでこのような話をさせていただいているので、現在推奨されている搾乳手順を載せておきます。

- ①前搾り↓(プレディッピング)↓②乳頭清拭↓③ティートカップ装着↓④ポストディッピング

### ●なぜこの方法が推奨されているのか？

前述のようなチャートは何度も見たことがあると思います。私が思うにこの手順だとティートカップ装着時と離脱後の乳頭が清潔な状態に保たれると思います。つまり搾乳時、乳頭口から病原菌が侵入する機会が減少するということです。私が何件かお伺いさせてもらった農家さんでは、①と②が逆転しているところが散見できました。写真はゴム手袋の指の部分を血液寒天培地に塗って生えてきた菌です。この手袋は牛を触った後、手指部をよく水洗いしたものです。せっかく前搾りの前にきれいに拭いたことが無駄になってしまふと思いませんか？初めは違和感を覚え



牛表面の菌は手に付着すると水洗いしてもなかなか落ちない!!

と思うのですが、同じこと違う順番で行うのでしたらこの方法を採用してみてもいいかがでしょうか。中にはこの搾乳手順で無くとも問題ないと感じる農家さんもあることでしょう。しかし酪農とは季節やその年収穫できた草の質などで牛の健康状態は大きく左右されます。そのような群のブレを搾乳で補正できれば乳房炎を最小限に抑えられるのではないかと私は考えます。

### ●最後に

今までの搾乳手順を変更するのは非常に抵抗があると思います。一気に変えようとせず、仕事に支障をきたさない範囲から始めても思われます。農家は、農家によってもそれだけでも大きな成果が見られることもあると思います。このことが少しでも皆さんの仕事の助けになれば幸いです。本当の最後に現在最も推奨されている搾乳手技のチャートを載せておきます。

### 変法ミネソタ法

1. 搾乳手袋、ユニット移動(繋ぎの場合)
  2. プレディッピング
  3. ストリップカップで前搾り(各4回以上)
  4. 乳頭のみこすり<5秒>(汚れがひどいときは再ディップ)
  5. 手洗い(手袋の汚れを洗い流す・殺菌)
  6. 乳頭清拭
  7. 搾乳ユニットの装着
  8. アライメント(ロングミルクチューブとクローの位地調整)
  9. ユニット離脱
  10. ポストディッピング
- ※3と4は逆でも可

出典: 搾乳方法の見直し編 Dairy Japanより